

撮影開始から約1年半。全体の4割の撮影が終了。中間報告の上映会です。

モル巧ラニの霧の中

脚本・監督／坪川拓史 製作／室蘭映画製作応援団

撮影中間報告 上映会

題字／阿部一猛
写真撮影／山田清澄

第2章 写真館の話

第4章 科学館と桃子の話

第5章 蒸気機関車の話



9月11日(金) 14:00～ ※1日2回上映
18:30～ ※各回30分前開場

室蘭市市民会館 内容:上映3本(2章・4章・5章)、
トークショー、グッズ販売・サイン会

整理券
必要 入場無料

配布場所: ふれあいサロン「ほっとな〜る」(中島町/0143-50-6611)、ぶらっと。てついち
(輪西町/0143-44-3323)、お休み処MURATA(母恋北町/0143-22-4915)、
室蘭観光協会(中央町/0143-23-0102)、白鳥台会館(白鳥台/0143-59-4241)

問い合わせ: 0143-50-6200 / info@moruerani.com(事務局)

ご挨拶

西いぶり発「純正ご当地映画」プロジェクトについて

近年、ロケ地を訪れる人が増える等、地域に一定の効果があると認められている「ご当地映画」ですが、監督が愛着を持ってそのまに暮らし、同じまちに住んでいる人たちと共に作るという「純正ご当地映画」はありませんでした。しかし、私たちのまちには、独特の「どこにもない景色」と、世界でいくつもの賞を受賞した「一流の映画監督が暮らしている」という素晴らしい条件が揃っていたのです。この幸運を最大限に生かすべく、自分たちで資金や労力をも賄って、世界に通用する最高のクオリティの「このまち」映画をつくろう。そんな映画史上前代未聞のプロジェクトがスタートしたのは2014年の3月のこと。皆様のご支援のおかげでこれまでに、2014年5月、10月、2015年5月と3度の撮影を行いました。こうしてつくる映画は製作段階から注目度も高く、また、完成した映画そのものがこの地域の素晴らしさを全国や世界の人々に知ってもらうための「ガイドブック」や「旅のしおり」として重要かつ新たな切り札となると私たちは思っています。まちへの想いを「純正ご当地映画」として形にすることで、「このまち」のこれらをつくる。そんな、単なる映画づくりとは一線を画したプロジェクトが、「モルセラニの霧の中」です。

室蘭映画製作応援団

キャスト

一流の豪華俳優陣

2015年5月までの発表分(他キャストは随時発表)



河合龍之介



大塚寧々



香川京子



久保田紗友



坂本長利



大杉 漣

市民キャスト

市民が準主役級で出演！

…ほか、多数の市民が出演します。



村田 博
(室蘭在住)

このまちの美しさに惹かれた監督の想いと、このまちが大好きだという自分の想いは同じと感じ、微力ながら市民キャストとして参加させて頂きました。いい映画になると思いますし、是非そうしたいと願っています。



竹野留里
(室蘭在住)

私もいつかはこの生まれ育った町を出る時が来るだろう…そう思うと、室蘭の一片として、今の私をこの映画の中に入れて頂けて幸せです。山や坂が多い町だからこそ(学校のマラソンの時は嫌だけど)色々なアングルから楽しめる、外国に負けない美しい表情の自然と、温かい人々や友達がいるこの町が大好きです。

脚本・監督

坪川拓史 (室蘭生まれ)

1972年、北海道室蘭市生まれ長万部育ち
2011年家族とともに東京から室蘭へ移住



長年暮らした東京から、北海道室蘭市へ移り住んで4年が経ちました。この4年間で僕はすっかりこの町に魅せられてしまい、この地を舞台にした脚本を書きました。4年の間にお会いした方、見聞きしたエピソードをたくさん盛り込んだ脚本です。半分実話のお話しを、実際のその地で作るという、一風変わった映画になります。函館や小樽に優るとも劣らないこの町の魅力を、多くの方に知ってもらい、そして残していきたいと強く思いながら、いま準備を始めました。もちろんこの町も、(美しいこと)ばかりが溢れているわけではありません。いずこの地方都市にもみられる(哀しみ)も抱えています。あらゆる世界がデジタル化、グローバル化され、利便性の悪いものや生産性の低いものが生きにくい時代です。それに伴ない、消えゆく古き良きものたち、去っていく愛しきものたち、それら(哀しみ)をも包み込み、この(魅力的な地)で明るく力強く生きている人たちを描き、そして後世に残る作品にしたいと考えております。お力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。

日本... 北海道室蘭市... 脚本・監督... 坪川拓史... 室蘭生まれ... 1972年... 北海道室蘭市生まれ長万部育ち... 2011年家族とともに東京から室蘭へ移住... 長年暮らした東京から、北海道室蘭市へ移り住んで4年が経ちました。この4年間で僕はすっかりこの町に魅せられてしまい、この地を舞台にした脚本を書きました。4年の間にお会いした方、見聞きしたエピソードをたくさん盛り込んだ脚本です。半分実話のお話しを、実際のその地で作るという、一風変わった映画になります。函館や小樽に優るとも劣らないこの町の魅力を、多くの方に知ってもらい、そして残していきたいと強く思いながら、いま準備を始めました。もちろんこの町も、(美しいこと)ばかりが溢れているわけではありません。いずこの地方都市にもみられる(哀しみ)も抱えています。あらゆる世界がデジタル化、グローバル化され、利便性の悪いものや生産性の低いものが生きにくい時代です。それに伴ない、消えゆく古き良きものたち、去っていく愛しきものたち、それら(哀しみ)をも包み込み、この(魅力的な地)で明るく力強く生きている人たちを描き、そして後世に残る作品にしたいと考えております。お力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。